

社会教育主事等研修：実践編 演習

「企画会議～効果的な連携・協働を進める具体的な動きを考える～」

1 演習のねらい

新規事業や職場の職員研修を立ち上げる企画会議の場면을事例として取り上げる。そして“その企画が成功した”という仮定のもと、実際のグループ協議の中で、成功した要因について、「準備面」「内容面」「人材面」等から考え、意見交換を行う。そのことをとおして効果的な連携・協働を進めるために大切なことは何かということについて具体的に考え、社会教育主事としての役割を再認識するとともに、実践意欲を高める。

2 取り扱う場面設定と演習を通して考えたいこと

【シーン①新規事業企画】

人々のつながりをつくることを目的とした新規事業を企画する場面において、どのように様々な関係者による実行委員会を運営し、どのような準備をしたことが成功につながったのかということについて考える。

- 実行委員会には誰に入ってもらうのがよいのか。
- 地域や学校の先生、その他関係者、行政担当者との関係づくりをどう行うのか。
- 関係者とどのような目標・ビジョンをどのように共有するのか。
- どのような人や団体との連携が必要なのか。（事前も含めて）
- 事業当日までの半年間で、どの順序で準備を進めたのが良かったのか。
- 企画の内容をどのようなものにしたから成功したのか。

【シーン②職員研修企画】

近隣3町で連携をとって合同研修会を企画する場面において、どのように準備をし、どのような内容にしたことが充実した研修会につながったのかということについて考える。

- 合同研修会を実現させるために誰と連携するのか。
- 近隣3町のリーダー職員との関係づくりをどう行うのか。
- 関係者とどのような目標・ビジョンをどのように共有するのか。
- 事業当日までの半年間で、どの順序で準備を進めたのが良かったのか。
- 誰を対象に、どのような研修内容、手法、展開で進めたから充実した研修会になったのか。

【シーン①新規事業企画】

あなたは、この地域に来て3年目の公民館職員で、社会教育主事の有資格者。地域とのつながりもできてきた。

今年の2月、学校・地域と連携した新規事業を企画しようということになった。あなたは、この企画の中心となり、より多くの人の考えを取り入れたいと実行委員会を立ち上げて、半年後の7月の企画実施に向けて行動を開始することになった。

そもそもこの企画話が持ち上がったきっかけは、町内会長さんが公民館に来るたびに、住民同士のつながりが薄れてきたこと、町に活気がなくなって寂しくなってきたこと、みんなでつながれる企画ができればと考えていることなどを話していかれるようになったことからであった。

これまで、町のみんながつながるようなイベントや行事はなかった。せっかく町をあげての企画を考えるのであれば、子供たちも高齢者も参加でき、一緒になって何かに取り組める企画がいい。子供たちに参加してもらうとなると、保護者の理解も必要になってくる。

あなたの勤める公民館には、なんとか中高生に公民館を活用してもらいたいという長年の思いがあった。地域の行事にも小学校まではよく来ていた子供たちも、中学校になると部活動などいろいろと忙しく、全くと言っていいほど来なくなる。高校生になるとなおさらだ。この機会に地域行事にも関心を向けてくれるといいなとあなたは思った。

地域の小学校では、自分たちの住む地域のことをしっかりと知ってほしい、地域に誇りを持ってほしいという思いから、地域学習に力を入れている。その学習を進めていくために、地域の方の力は欠かせない。先生方が、公民館に時々相談に来られることもあった。また、小学校には、地域の方に子供たちに関心を持ってもらいたかったので、何とか学校行事に地域の方に協力・連携してもらいたいとの思いがあった。校長先生は、地域で子供を育てることにとっても理解があるのだが、今年度転勤してきたばかりで、地域のことはまだよく分からないとのことであった。

地域の中学校でも地域学習に取り組んでいるようだが、これまで公民館と連携して何かをするということはしてきていない。このことが中学校になると地域行事から離れていく要因の一つにもなっていた。

半年後、企画は実施された。当初の目標どおり、これまでつながっていなかった人たちも自然に話ができるようになり、町に活気が出てきたように感じる、そんな企画となった。様々な人の考えを聞き、それを一つ一つ形にした結果だった。

実行委員会のメンバーは、この企画に手ごたえを感じ、来年に向けての話合いをすぐにでも始めたい気持ちでいっぱいだった。

【シーン②職員研修企画】

あなたは職場で中核を担う職員で、今の職場に来て2年目が終わろうとしている。会議がある度に会議の進行役を務め、適切な進行を行ってきた。職場の上司、後輩からの信頼も厚い。特に、後輩はあなたを頼りにしている。

あなたは、後輩にもそろそろ自分と同じように会議を取り仕切ったり、進めたりして欲しいと思うようになっていた。

そんなことを考えていた2月に上司から、「職場の皆があなたのように会議の進行役を務まるように研修を考えてもらえないか」、「近隣3町も同じような研修を考えているので合同の研修会を実施してみないか」と相談を持ちかけられた。

そこで、あなたは、職員のファシリテーション力を上げるための3町合同職員研修会を来年度実施することにした。内容や進行については全てあなたに任されている。

3町合同となった発端は、毎月1回行われる公民館連合会のブロック会議でのことだった。この会議では、近隣3町の公民館長が集まって情報交換などが行われている。

その中で、職員の育成をどのように進めていくべきかという話になり、どの町も、若手を育成しなくてはならないと思いつつも、なかなか職員研修会をするまでには至っていない状況であった。そこで、館長同士が相談をして、3町合同職員研修会をしてみないかという話になっていた。

これまでに合同研修会などしたことはなかったが、あなたの提案に他の2町も賛同し、半年後の「ファシリテーション研修」に向けて準備をすることとなった。

半年後、準備の甲斐あって、合同研修会は実施された。「職場に近い場所で実践的な研修ができてとても良かった」「外部講師を招聘せず、自分たち職員だけで行う研修も良いと感じた」という声があがるなど好評の研修となり、今後、あと何回か合同研修会をしようということになった。合同研修会と合同研修会の間は、しっかりと各職場でOJTを行うことも確認した。

あなたは、この合同研修会の企画を通して、自身のファシリテーション力等も少し向上したのではないかと実感した。